

令和7年度（2025年度）島根県立大学  
地域政策学部 地域政策学科  
地域づくりコース

総合型選抜（自己推薦）

小論文

【解答時間 90分】

以下の注意事項をよく読んで指示に従うようにしてください。

指示に従わない場合は、不正行為と見なしますので、注意してください。

1. 解答開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。許可なくこの問題冊子を開いた場合は、不正行為と見なします。
2. 解答時間は90分です。
3. 試験問題は、1ページから5ページです。解答開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明な箇所等があった場合は、直ちに申し出てください。
4. 解答用紙は2枚あり、問題冊子とは別になっています。解答は指定された解答用紙の解答欄に横書きで記入してください。
5. 受験番号、氏名は2枚の解答用紙の所定欄すべてに記入してください。
6. 問題冊子の余白を下書きに利用しても構いません。
7. 試験時間中の退出はできません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

**第1問** 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

地域を学ぶこととは、「私」が誰なのかを知ることである。私は必ずどこかの地域にいる。その足は何らかの地域に接している。その地域のことを知らずして、私とは何かを語ることはできない。

もっとも、では「地域とは何か」が「私」よりも自明なのかといえ、決してそんなことはない。「地域とは何か」はなかなか厄介な問いなのである。

地域は多様である。それはただ地域に様々あるというだけではない。「私」が自分の周りをどんなふうにとらえているかによって多様に現れる。試しに誰でもよい、「(A)あなたにとって地域ってなに？」とたずねてみればよい。どう答えるだろうか。

答えは人によって、またその受け答えの文脈によって、大きく異なるものになるはずだ。「いま住んでいる八王子市のことかな」という人もいれば、「うちの実家の集落」という人もいるだろう。「神奈川県」という答えもあれば、「関西」や「九州」とより広い範囲で示されることもある。では、どれが正解なのだろうか。

どれも「地域」でよいのである。

さらにはこうもいえる。諸外国から見れば、「日本」や「アジア」も「地域」である。いやそれどころか、このさき出会うかもしれない宇宙人にとってみれば、この地球や太陽系でさえ「地域」になる。そしてその地域は、例えば国境や県境が変わることによって、その姿は変化する。地域は決して固定化された何らかの空間ではない。それは文脈によって見方によって、そして時代によって変わるものである。

いやむしろこう考えるべきものなのである。「地域」はそもそも、誰かが世界の一部を切り取ることによって浮かび上がってくるものであると。

何かを切り取らないと地域は出てこない（地域は境界性をもつ）。そして、その「切り取り方」にも色んなやり方がある、それは文脈にもよれば、時代によっても違う（地域は文化性・歴史性をもつ）。

いや、もっとこういうべきである。そもそも世界のすべてはつながっている。どこかで切れ切れになっていて、「地域」がきれいに分かれているなどということはない。すべてはつながっているのだが、そのつながっているもののなかから、何らかの固まりを切り出してきたときに「地域」は立ち現れる。しかもそれが、全体の一部でありながら決して断片ではなく、それのみでなお一つの全体でありうるもの、それが地域である（地域は統一性・総合性をもつ）。

「地域」とはこうして、ゴロリとそこに横たわっているようなものではない。互いにつながりあっている世界の中から、何らかの固まりを見つけ、切り出してくる者がいるから「地域」になるのである。地域はだから、その「切り出してくる者」の立場やものの見方によって変わる。その者の見方がしっかりしていれば地域はしっかり示される。逆にその者の見方がぼんやりとしていれば、地域はぼんやりとしか見えないことになる。

さて、地域学の学びの中で、対象となる地域を世界の中から切り出してくる者——それこそがほかならぬ「私」である。どんな地域を切り取ることができるかは、「私」が世界をどう見ているかにかかっている。とすると、先の「足もとの地域を知ることが、自分を知ることにつながる」は、もう一度、別な形で裏返ることにもなるわけだ。すなわち、「地域を知るためには、自分を知らねばならない」と。

漠然と世界を見ているかぎり、地域についての認識もまた漠然としたものにしかならない。地域はそれを切り取る者の見方を反映する。地域を知ることと、私を知るとは同一の事象の裏表である。「地域ってなに？」と聞かれてその人が答えた答えの中に、その人自身が含まれる。地域学とは、地域と自分を同時に学び、深めていくことである。漠とした世界の中からしっかりと地域を切り出し、うまく見出すことができたなら、そのことによって自分自身の認識が深まったことになる。地域がよりよく見えるようになることとは、自分のものの見方を鍛え、自分という存在を高めていくことである。そしてそのように自分を高めることによって、地域もまた以前よりはっきりとその姿を現すようになっていく——。

もっとも、自分自身を高めるためといってしまうえば、「学び」はみな同じである。地域学だけが特別なのではない。だが地域学の学びには、他からは一歩進んだ、もっと大切なものが潜んでいる。このことを最初にきちんと確認しておこう。

人は必ずどこかの時空（時間・空間）に存在する。そして地域を切り取ることとは、ある特定の時空を一つの固まりとして切り出してくることである。

本来、空間は果てしなく広がり、時間は延々と切れ目なくつづく。その中からある場所を一つの地域として取り出すこととは、ものごとを時空の中に見定め、その見定めを行う自分自身を時空の中に確たる存在としてつなぎとめることである。逆に言えば、地域が見えない人とは、自分が存在している時空が見えていない人だということにもなる。

だが、単に時空を認識することが地域なのではない。より重要なのは次の点にある。

地域——一定の境界のうちにあり、歴史の中にあり、総合的である地域——は、単なる時空の認識ではない。それは、私の生をとりまく、様々なものごとの深いつながりである。地域とは、私が生きている条件、その環境、自分を生かしてくれている仕組みそのものである。地域を知るということは、単なる時空を、自分という存在を可能にしてくれる条件として描き出すことにほかならない。

地域学とは要するに、抽象的な言語や普遍的な理論を学ぶものではなく、具体的な時空にいる私を、特定の生態環境のうちに照らし出していき、そんな学びの作業なのである。私を漠たる世界のなかに確定し、地域のうちに“生きているもの”として浮かび上がらせ、見定めていくこと——こうした作業を通じて現れてくる「私」のことを専門用語では、「アイデンティティ（自己同一性、自己同定性）」とか、「実存」などと表現するが、そうした自己同定の作業のうち、最も基本となる作業が地域学である。

（出典：山下祐介『地域学入門』ちくま新書 筑摩書房、2021年9月、12頁—16頁）

問1 下線部(A)「あなたにとって地域ってなに？」との質問に対するあなたの回答を、理由を明確にした上で示し、将来そこでどのような「地域づくり」を志しているのか、本文の内容をふまえ600字程度で書きなさい。

第2問 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

海部町（現在は合併して、海陽町となっています）の存在は、岡檀（現在、統計数理研究所医療健康データ科学研究センター特任助教）の自殺の研究を通じて知りました。岡は、海部町の自殺率が、国内では離島を除いて最も低いという事実を見つけ、その秘密を探るための研究を行ったのです（離島を除いたのは離島の環境があまりに特殊だからです）。慶應義塾大学の博士論文にまとめられたその成果は後に『生き心地の良い町』（講談社）として出版されています。

岡の研究が明らかにしたのは、海部町には“開かれたコミュニティ”とでも呼ぶべき絶妙なバランスの共同社会が存在していることです。その絶妙な共同社会が支えとなることで、自殺という最悪の解決方法に個人が頼るほかなくなるのが未然に防止されています。死を覚悟するまで追い詰められるようなことがないという意味で、「生き心地が良い」のです。

岡は、詳細なフィールドワークとアンケート調査を基に、海部町の社会に特徴的なことを五つ抜き出しています。「自殺予防因子」と名付けられたその五つの特徴とは、「いろいろな人がいてもよい、いろいろな人がいた方がよい（＝多様性の尊重）」、「人物本位主義をつらぬく（＝地位や肩書きに惑わされない。立身出世主義からの自由）」、「どうせ自分なんて、と考えない（＝高い自尊感情と自己効力感）」、「『病』は市に出せ（＝悩みは抱え込まずにシェアする）」、「ゆるやかにつながる（＝つかず離れずの距離感。監視より関心）」です（カッコ内は井上による注釈）。

コミュニティを知る人は、コミュニティの良さも悪さも知っています。仲間として認めてもらえれば、助け合い、支え合う心強さがある一方で、つねにみんな一緒であることを求められたり、年長者がやたらと威張っていたり、ヨソ者に対しては閉鎖的で排外的であったりといった重苦しい側面がコミュニティにはあります。

しかし、海部町のコミュニティには、そういう重苦しさがありません。そうならないよう巧妙にデザインされているのです。岡は、海部町の人々のことを「世事に長けている」と表現しますが、確かに、海部町の人々は、人間というもの、社会というものをよくわかっているのだなと感心します。人間や社会の好い面も悪い面もわかった上で、（A）人が生きやすい社会、生き心地の良い社会になるための巧妙なデザインが随所に施された社会になっているからです。社会を成り立たせているのも一つの技術ですが、海部町には非常に洗練された社会の技術（ソーシャルテクノロジー）が埋め込まれています。（後略）

（出典：井上岳一『日本列島回復論 この国で生き続けるために』新潮選書、新潮社、2019年10月、288—289頁）

問1 下線部（A）とあるが、巧妙なデザインが随所に施された社会とされる海部町に形成されている社会を、出来るだけ本文の表現を活用して200字程度で説明しなさい。

\*海部町 徳島県南部の太平洋岸にある小さな町。なお、海部町は合併して海陽町となっていますが、どちらを引用しても構いません。